

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-3-1 医療機能の確保
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	医療政策課長 家本 賢	電話番号	0852-22-6252
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	在宅医療の推進		
目的	(1) 対象	在宅医療関係機関	
	(2) 意図	・各医療圏での具体的な取組への支援や医療機関等における体制整備を通じ、地域医療再生基金事業で成果を挙げたモデル的な取組を普及拡大する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の医療機関が相互に連携して医療・介護サービスを提供しようとするモデル的な取組に必要な経費を支援する。 ・在宅医療に関する県民の理解を深めるため、各種媒体等を通じてわかりやすく広報を行う。 ・病院が在宅医療を地域で主体的に推進していくために、研修をはじめとする体制整備を総合的に支援する。 ・訪問系事業所の集約を図り、相互の連携を強化することにより効率的にサービスを提供しようとする拠点施設の整備に必要な経費を支援する。 ・在宅医療に取り組み病院が、訪問診療を推進するために整備する訪問看護ステーションの整備に必要な経費を支援する。 ・病院、診療所、薬局などが行う在宅における医療の提供に必要な車両、医療機器及び設備の整備に必要な経費を支援する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	訪問看護ステーションに従事する看護職員数（常勤換算）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義	訪問看護ステーションに従事する看護職員数（常勤換算）	目標値			297.00	297.00	297.00	人
			実績値		233.20	273.20	283.40		
			達成率				95.50		%
指標名	式・定義	訪問看護ステーションに従事する看護職員数（常勤換算）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	10,990	356,825
うち一般財源(千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成27年4月現在、訪問看護ステーションの数は66カ所、従事する看護職員数（常勤換算）は288.9人（高齢者福祉課調べ）で、いずれも着実に増加している。
 ・在宅療養支援病院は県内に8カ所、在宅療養支援診療所は約140カ所前後で推移しており、県内の病院、診療所数が微減する中で、その体制を維持している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・医療と介護の連携について、病院医師、診療所医師（かかりつけ医）、病院看護師、MSW、訪問看護師、訪問リハビリ、ケアマネジャー等多職種において顔の見える関係が構築されつつある。
 ・二次医療圏ごとに、県域の実情をふまえた在宅医療の提供体制の維持や充実に向けて、各機関・職種の果たすべき役割について検討する場が確保されている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 在宅医療に取り組む病院、診療所や訪問看護ステーションが集積する地域から離れた場所に居住する住民には、必要な訪問診療、訪問看護等が行き届かない条件不利地域が存在し、やむを得ず社会的入院や施設入所を余儀なくされている現状がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 東西に長い地理的事情や道路事情の中で住民が点在する状況にあっては、診療所や訪問看護ステーションがサービス提供を行うには採算性が確保できない。
- ③原因を解消するための「課題」
 市町村が主体となって取り組む地域包括ケアシステム確立の観点から、採算性を改善するための支援制度の構築が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・条件不利地域への訪問診療・訪問看護に取り組む各機関への支援に取り組む市町村を支援する制度を創設したところであり、市町村との一層の連携を図る必要がある。
 ・在宅医療を受ける側の住民に対する情報提供、普及啓発を引き続き行い、在宅医療、地域医療への理解を深めていただく必要がある。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）